

うじいどばたかいき

レポート

H29年8月開催



第9回うじ井戸端会議を開催しました！

第9回目（H29年度の初回）となるうじ井戸端会議を8月3日に開催しました。まちづくりマイスターさん、地区まちづくり協議会、その他まちづくりに興味のある方12名が参加されました。H29年度の企画運営として、10名の方が手を挙げてくださり、企画運営に携わってくださいました。企画運営の方との打ち合わせを行い、今回は「うじの交通」をテーマとして開催しました。前回、「交通」を取り組んだ時は明星町のレインボウバスについて討議しました。今回は改めて「うじの交通」について幅広い視点で課題点・問題点を抽出するため、ワークショップを実施しました。



・ゾーン30をご存知ですか！？

⇒ ゾーン30とは、生活道路における区域（ゾーン）を定めて最高速度30km/hの速度制限を実施し、ゾーン内における速度の抑制や抜け道行為の抑制を図る生活道路対策です。

右のグラフのとおり、自動車と歩行者が衝突した場合、自動車の速度が30km/hを超えると歩行者の致死率が急激に上昇します。

このため、生活道路を走行する自動車の速度30km/h以下に抑制することとしました。

現在宇治市では、横島町の宇治おぐら住宅周辺で実施しています。

自動車の速度と歩行者の致死率



注1 平成17年から21年中に幅員5.5メートル未満の単路で発生した人対車両事故の分析による。

2 致死率とは、死傷者数に対する死者数の割合をいう。



1班では

- ・歩道と車道の段差が大きい。
- ・民家の生垣が歩道にまで、はみ出しており、歩道を狭めている。
- ・歩道が狭く、対面から歩いてくる人とのすれ違えない。
- ・自転車を利用する観光客が増えているので、安全対策が必要。
- ・南宇治、中宇治、東宇治を繋ぐ公共交通機関が無い。
- ・車道と歩道の境にある縁石が高くて危ない。
- ・夜間は歩道の縁石が見えにくいため、足を引っ掛けで転倒しそうになる。
- ・高齢者は、よくバスを利用するため、広範囲に移動できるバスが必要。



2班では

- ・自転車、歩行者の「ながらスマホ」に、注意を呼びかけるような交通安全行動を取るべき。
- ・公共交通機関の利用率が低い。
- ・自動車の利用が増えているため、交通量の増加が危険視される。
- ・バスの利用者が少ないため、バスの本数が減っている。
- ・「出歩けるまちづくり・環境づくり」を心掛ける必要がある。
- ・現在一つの家庭に車が2台ある時代なので、自動車の利用が増え交通量の増加が考えられる。
- ・交差点付近の自転車走行に危険を感じる。



3班では

- ・バスの頻度が20分に1本だったのが30分に1本になっている地域がある。
- ・歩道が無い所で道路を歩いている子供が危険。
- ・保育所付近の道路を抜け道として使用している自動車が多い。
- ・本町通りで、路上駐車により大型バスの離合が困難となっていることが多い。
- ・夕方、大型ショッピングセンター付近の交通量が多くて混雑する。
- ・通勤時に住宅地を抜け道に使用する自動車があり、危険度が高い。
- ・宇治橋通りは観光客が多いにも関わらず、自動車の交通量も多いので危ない。



次回のうじ井戸端会議

H29年10月24日(火) 13:30~

宇治市役所 5階 501会議室

第10回のうじ井戸端会議を上記のとおり行います！

第9回目のうじ井戸端会議で参加者の皆様から、多くの課題点・問題点を抽出して頂きました。その中から、

選んだ課題に対し、改善点・解決案を討議します！

皆様、奮ってご参加ください！